



ほっかい

水とふれあい通信

◇発行 者／岩見沢市6条西7丁目 北 海 土 地 改 良 区

TEL (0126) 22-2400 FAX (0126) 22-8012

URLアドレス <http://www.midorinet-hokkai.jp>

◇印 刷／弘文社印刷株式会社 岩見沢市 5 条東11丁目



み どり 水・土・里 かがやく北の大地 あす 明日を担う土地改良
～食と農業・農村の未来を確かなものに～

『第36回 全国土地改良大会 in 北海道』

現地視察の様子（美唄市光珠内調整池・北海幹線用水路）

主 な 内 容

役員改選により、新体制スタート	2～6
平成25年度第1回臨時総代会開催	7～10
人事通信ほか	11～14
合併10周年記念式挙行	15
第36回全国土地改良大会開催	16

改良区の現況
地区面積 33,323ha
組合員数 2,425人
平成25年4月対比 △20人
平成25年10月1日現在

第 87 号

役員改正により、新体制スタート!

平成25年8月23日開催の臨時総代会において、役員の任期満了に伴う改選が執行され、その後の互選会を経て、新体制が9月19日からスタートいたしました。
なお、眞野前理事長の勇退に伴う新常勤体制には、尾田理事長、長井専務理事が就任いたしました。



北海道土地改良区

理事長

尾田 則幸

(岩見沢市)

本年も昨年続き、豪雪による雪どけの遅れと、春耕期の長期間の天候不順による春作業や移植作業が大幅に遅れ、春早々から出来秋の心配をする状況でありました。

六月以降天候も順調に回復をし、早魃傾向で暑い夏のもと、豊稔の出来秋を迎える事が出来ましたことは、組合員皆様方のご苦労と努力の实った結果であり、衷心より喜びを申し上げます。

さて今年は平成十五年に近隣土地改良区と合併をして、まさしく日本一の面積を有する土地改良区になって十周年の節目の年を迎えたところであり、六月二十五日、関係機関、組合員の代表者と共に十周年の記念式を挙行して、役職員、気持ちを新たに、組合員諸氏と共に益々の地域農業の発展を誓ったところであります。今年、役員の任期満了による改選期を迎え、惜しみも余りある、眞野前理事長が、今期をもって勇退をされました。温厚、誠実、融和をもって、北海道土地改良区の主として、改良区運営に多大のご尽力と功績をいた

いただきました。又、道土地連空知支部長、道土地連の会長として、又、全国土地連の副会長として、特に北海道の土地改良区の顔としてその存在は極めて偉大なものがあります。特に平成二十一年、政権交代によつてN・N事業費予算の驚愕の削減による土地改良の危機的状況を打開する為、オール北海道での決起大会を実施、又、全国大会の呼びかけも実現をしたところであります。まさしく全道、全国の土地改良の主役を勤めてこられた実績と功績は、北海道土地改良区の名誉として長く称えられるものと確信するところであります。

第十八期理事と第十九期監事の選任が役員推薦会議、総代会議決を得て、決定をいただき、その後の互選会議によりまして、私が理事長を拝命する事となりました。浅学非才、決してその器ではありませんがその責任の重大さを、身をもって実感しているところであります。北海道土地改良区の長い歴史と功績に恥じぬよう、最善を尽くして努力をして参る所存であります。組合員各位のご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

いつの時代も常に、農業を取り巻く情勢は大変厳しいものがあります。市場原理導入、農産物価格の低迷、生産機材、エネルギーの高騰といった農家経済を直撃する現実であります。経営安定の為の経営所得安定対策も未だ、法制化も実現できない現状であり、今後の北海道農業の命運を任なうと言われるTPP、秘密裡の中で

の妥結の内容も大変気掛かりであります。政府与党はよもや嘘はつかないものと期待をし、信じるのみであります。

近年の気候変動は、地球規模での温暖化の影響で集中豪雨、早魃をもたらしている現状であり、本道もその影響を大きく受けていると考えられるところで、土地改良事業工事の進捗にも大きな影響が出ている状況であります。

受益者の強い要請のあります、通年での施工が可能な制度も期待がもてる方向で検討がなされておるところであると聞いております。

北海道地区を始めとする国営事業五地区、道営事業四十一地区、団体営六地区など、国、道、市町村の大きなご支援ご協力のもと、計画的土地改良事業推進が当区に課せられた役割でもあります。土地改良区本来の役割である、末端農地までの水利供給の充実と、担い手が夢をもつて営農に取り組める為の自給力の強い大規模な土地基盤整備に役職員一体となつて全力で事に当たつて参る所存であります。

組合員各位の今後益々のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げますとともに、私共にご支援、ご協力とご指導を賜りますよう、衷心よりお願いを申し上げます。就任の挨拶といたします。



北海道土地改良区

専務理事

長井 眞一

(岩見沢市)

本年も昨年と同じように豪雪に始まり春作業の遅れを心配する営農のスタートとなりました。春の融雪遅

れに加えて日照不足と地温の低さでの播種作業の遅れ。六、七月におきましては、高温少雨による生育障害。

お盆を過ぎますと突然のゲリラ豪雨。天候が不安定な中で畑作物につきましては麦を代表するように、非常に生産性を下げる状況で満足いくものが少ない状態です。水稲につきましては、春先の遅れを取り戻すような好天に恵まれ、昨年には及びませんがまずまずの秋を迎える時期となりました。

本年は当区に於きましても、六月二十五日(火)平安閣にて合併十周年記念式(近隣改良区との合併)を行う事ができました。また九月十一日(水)には、第三十六回全国土地改良大会が札幌の北海きたえーるで行われ全国から三千余名が集り、その研修先として、国営かんがい排水事業(北海地区)、国営農地再編整備事業(中樹林地区)が注目を集める事となりました。

この度、八月二十三日の臨時総代会におきまして、任期満了に伴う役員改選が執行され、総代各位の承認を賜り理事に再任され、九月六日の理事互選会において、専務理事に選任されました。大変重責で緊張の連続では有りますが、お引き受けした以上、当区の事業運営に全力で寄与したいと存じます。

なお永年に亘り眞野前理事長にはご尽力を頂き各方面への人脈を築いて頂いた事にしまして感謝を申し上げるとともに、それを大切にし発展させる事がひとつの責務と考えるところでもあります。

国営、道営事業の推進やT・P問題などこれからも多くの課題を超えて行かなければなりません。そんな中でも事業推進における地元負担の軽減を念頭に置きながら、土地改良区の適正な維持管理、健全な運営に取り組んで参りたいと考えます。

従来にも増して、役員はもとより、組合員各位のご指導ご鞭撻を頂きますようお願いを申し上げて就任の挨拶とします。

退任の挨拶



北海道改良区
前理事長

眞野 弘

(美唄市)

組合員並に北海道改良区関係の皆様、益々の御清祥お慶び申し上げます。

さて、私事、今期をもって理事長を退任させて頂きました。振り返ってみますと専務理事二期八年、理事長三期十二年。合わせると常勤だけで二十年。この永きにわたり百年に近い歴史と伝統、北海道遺産認定、あるいは全国の疎水百選選定の北海道線用水路を最大のシンボルとして日本一、東洋一の北海道改良区、私ごとが君臨させて頂いた、幸せを今は感謝と感激と、満足と勿体ない思いときわめて複雑な心境でございます。加えてこのことが北海道土地連や全国土地改良団体連合会にも北海道改良区存在、その評価を認知出来たこと、最高の思い出であります。

専務理事就任の平成五年は御存じの障害型の大冷害の年であり、国際化に因る、細川内閣のガットウルグアイラウンド合意の年であります。また、旧北海の八十周年記念式は平成十三年、佐藤前理事長の退任の年であつたところであります。この六月、十周年の記念式、皆様の参加を頂いた土地改良区の合併は平成十五年でございますし、名譽ある北海道遺産認定は平成十六年、疎水百選は平成十八年であります。そして堂堂たる本庁舎落成も平成十七年であります。ただここで一つだけ残念なことは大富幹線の事故はこの庁舎落成と同じ平成十七年の年であります。今もなお残念な事案として脳裏をかすめること、また手を合わせる思い

であります。

また土地連の関係では平成十九年四月会長就任となりますが、土地連の創立五十年が平成二十年の年。この年には第三回の全国疎水サミットも北海道で開催したところであります。ちょうど世界の環境を最大のテーマとする洞爺湖サミットが七月に実施されることもあり、盛會に開催できた。これが六月の疎水サミットの開会でありました。そして今年の九月十一日には御案内の全国土地改良大会が三千人規模で札幌で開催いたしました。国費予算の削減もあつて、全国的にも低調に有る土地改良、北海道の熱意が、全国の活力に継ぐ目的が、併設行事も含め達成出来たこと、最高のイベントになりました。また一三六〇億円、日本一規模の国営かんがい事業、空知中央地区は平成二十一年の完工でありました。その次期事業、北海道区三八〇億円も順調にスタートしております。

このようにこの二十年きわめて優秀な歴代役員に囲まれて総代の皆さんや分水区長・支線組合長・組合員の御指導と応援の中で申し上げた数々の事業を実施できたこと、最高の幸せでございます。戦後の緊急開拓制度による昭和二十八年度入植から始まる私の人生、前半は開拓と造田(基盤整備)にくれた土地改良の現場そのものであり、後半は土地改良組織の中で事業推進を仕事としてきた、まさしく土地改良一筋、土地改良人生そのものであります。すっかり老いばれた七十七歳。国づくりの大切な一つ、土地改良の世界、土地改良の喜びをかみしめております。

最後に、北海道改良区の永遠不滅、北海道改良区の精々発展、心から御祈念を申し上げ温情に重ねて御礼を申し上げ、皆様の御健勝と御活躍を心から願ひながら退任挨拶とさせていただきます。長い間大変ありがとうございました。

新役員の顔ぶれ

第一回臨時総代会並に役員互選会を経て、今後四年間の新役員体制が決定いたしました。
(任期 平成25年9月19日～平成29年9月18日)

一、第18期 理事

理事長 尾田 則幸 (昇任)
専務理事 長井 眞一 (昇任)
筆頭理事 高田 幸雄 (再任)

第 二 区				第 一 区			被選任区
宮越英治	尾田 則幸	小島 光穂	高田 幸雄	齋藤 純敬	鈴木 正憲	中道 博武	氏 名
新	2 (監事 2)	新 (監事 2)	5	2	3	5	選任回数
岩見沢市	岩見沢市	美唄市	美唄市	美唄市	奈井江町	砂川市	市町村

第 五 区			第 四 区				第 三 区				被選任区
鍋 山 洋 一	石 川 康 弘	橋 爪 克 視	有 澤 晴 雄	菅 原 誠	内 田 繁 比 郎	峯 淳 一	星 野 節 雄	石 黒 武 美	長 井 眞 一	小 山 博 士	氏



鍋山理事 石川理事 有澤理事 菅原理事 内田理事 峯理事 石黒理事 小山理事 宮越理事 小島理事 齋藤理事 鈴木理事
星野理事 中道理事 長井専務理事 尾田理事長 高田筆頭理事 橋爪理事



中西監事 林監事 白倉総括監事 村上筆頭監事 前谷監事

第五区	第四区	第三区	第二区	第一区	被選 任区
白 倉 敏 美	中 西 洋 一	村 上 敏 文	林 孝 友	前 谷 篤	氏 名
2	新	2	2	新	選任 回数
南 幌 町	岩 見 沢 市	岩 見 沢 市	美 唄 市	砂 川 市	市 町 村

二、第19期 監事
 総括監事 白倉敏美 (昇任)
 筆頭監事 村上敏文 (昇任)

◎ 総務委員会

任期：(平成25年9月19日～平成27年9月18日)

役職名	氏名	摘要
委員長	中道博武	(以上8名・敬称略)
副委員長	星野節雄	
委員	齋藤純敬	
"	小島光穂	
"	宮越英治	
"	内田繁比郎	
"	有澤晴雄	
"	石川康弘	

◎ 施設管理委員会

任期：(平成25年9月19日～平成27年9月18日)

役職名	氏名	摘要
委員長	高田幸雄	(以上8名・敬称略)
副委員長	橋爪克視	
委員	鈴木正憲	
"	小山博士	
"	石黒武美	
"	峯淳一	
"	菅原誠	
"	鍋山洋一	



農業委員の推薦について

北海土地改良区が関係する農業委員の団体推薦委員について、下記のとおり推薦いたしましたので、お知らせいたします。

関 係 市 町 村	定 数	選 任 土 地 改 良 区	現 行		摘 要
			役 職 名	氏 名	
赤 平 市	1 名	北 海	総 代	橋 本 勉	組合員枠
砂 川 市	1 名	北 海	理 事	中 道 博 武	
奈 井 江 町	1 名	北 海	総 代	林 博 美	組合員枠
美 唄 市	1 名	北 海	理 事	高 田 幸 雄	
三 笠 市	1 名	北 海	総 代 支線組合長	谷 口 護	組合員枠
月 形 町	1 名	(月 形)		—	北海・月形・篠津中央・中 新土改区協議し決定
岩見沢市	1 名	北 海	専 務 理 事	長 井 眞 一	
南 幌 町	1 名	北 海	理 事	橋 爪 克 視	
江 別 市	1 名	(江 別)		—	北海・江別・南美原・篠津 中央土改区協議し決定
栗 山 町	1 名	(栗 山)		—	北海・栗山・由仁土改区協 議し決定
計	10 名	北海 7 名			

眞野理事長『農林水産大臣表彰』に輝く！

おめでとうございます

眞野理事長は、全国大会式典の土地改良事業功労者表彰にて地域農業発展のため数多くの農業農村整備事業を積極的に展開し、農業近代化の確立に大きく貢献してきた功績により、栄えある『農林水産大臣表彰』を受賞されました。



退任されました皆様方には、今日まで当区運営の発展向上に特段なるご尽力を賜り、深く感謝を申し上げますと共に、今後益々のご健勝を心よりご祈念申し上げます。
尚、各氏の永年に亘るご功績に深謝の意を表し、感謝状を贈呈させていただきました。

第17期理事・第18期監事退任される

役員名	氏 名	専任回数	市町村
総括監事	山 口 眞 野	7	美 唄 市
筆頭監事	梶 俊 忠	2	美 唄 市
		2	岩見沢市

平成25年度 第一回臨時総代会開催

平成25年度第1回臨時総代会が、8月23日岩見沢平安閣において総代97名の出席を得て開催され、議長に落井 清市氏(美唄市)、議事録記名人に伊藤 裕晃氏(美唄市)、堀田 一洋氏(岩見沢市)を各々選出し、報告1件・議案19件について慎重審議の結果、原案通り可決されました。

平成24年度 一般会計決算書報告

収入決算総額 4,358,447,972 円
支出決算総額 4,208,151,466 円
差引残高 150,296,506 円 (翌年度へ繰越)

翌年度繰越金 内訳 一般繰越額 147,588,537円 決済金等繰越額 2,707,969円

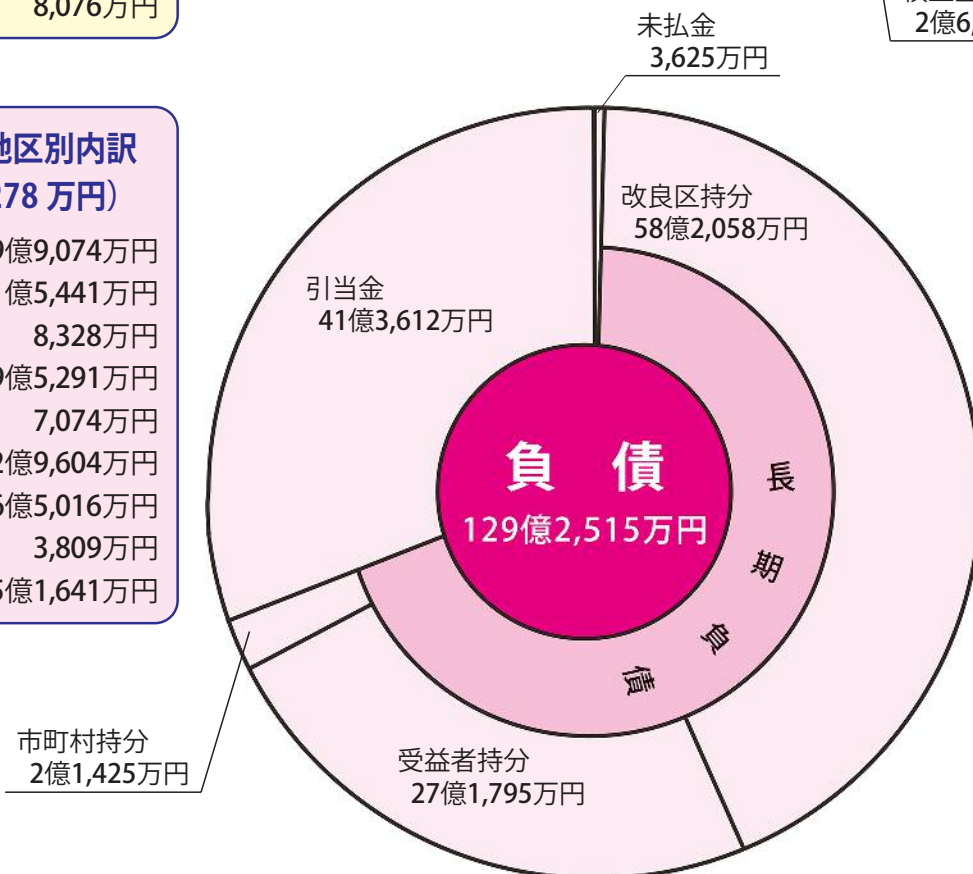
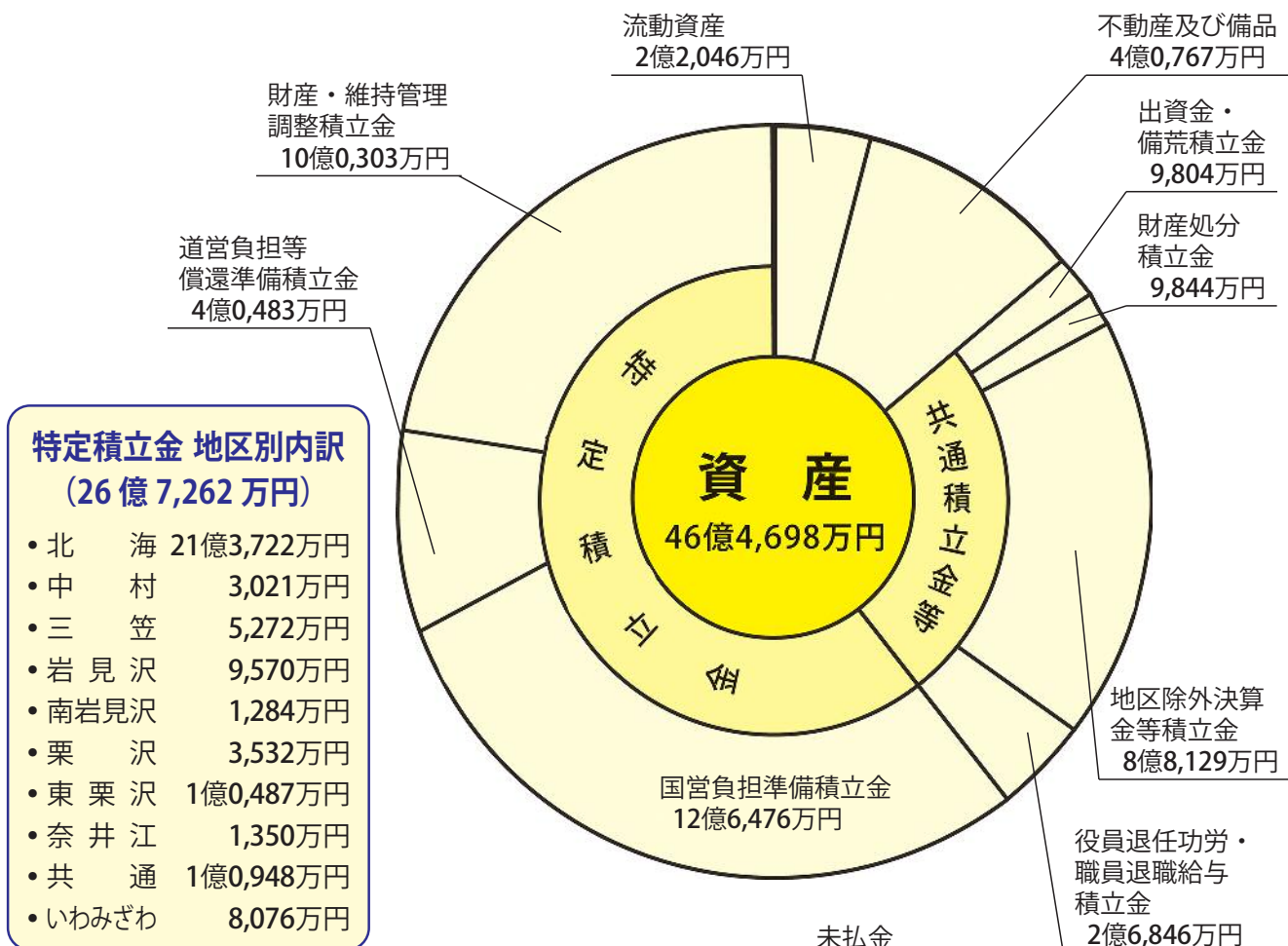
収 入 (単位：千円) 支 出 (単位：千円)

款	決 算 額	説 明
賦 課 金	2,044,450,191	経常賦課金 1,220,435,760 特別賦課金 801,912,644 事業賦課金 22,101,787
使 用 料	11,586,354	契約使用料 3,943,135 許可使用料 7,643,219
補 助 金 及び助成金	684,336,307	補助金 61,304,595 市町村等助成金 464,262,712 交付金 158,769,000
財産収入	55,715,214	預金利子 6,606,970 配当金 103,932 財産貸付収入 1,934,980 財産売却収入 47,069,332
受託及び 補 償 金	80,375,979	受託金 79,192,160 補償金 1,183,819
繰 入 金	392,888,522	基本財産繰入金 28,174,680 積立金繰入金 364,713,842
借 入 金	785,308,000	農林漁業資金借入金 689,950,000 長期借入金 95,358,000
諸 収 入	135,266,352	預金利子 99,780 過剰金 66,818 過年度収入 2,312,923 雑入 9,602,555 加入金 178,780 繰上償還金 115,568,248 決済金 7,437,248
換 地 費	0	
繰 越 金	168,521,053	前年度繰越金 168,521,053
収入合計	4,358,447,972	

款	決 算 額	説 明
一 般 管 理 費	650,671,307	報 酬 36,491,762 給 料 162,056,519 職員手当 132,027,211 退職給与金 99,431,103 賃 金 36,413,129 法定福利費 78,883,667 費用弁償 6,666,854 旅 費 9,589,800 交際費 934,200 需用費 38,436,300 使用料及び賃借料 3,094,568 備品購入費 3,933,270 備品管理費 17,344,568 宮繕費 11,190,279 手数料 11,290,801 会議費 2,887,276
営 造 物 管 理 費	863,329,196	頭首工維持費 14,182,749 貯水池維持費 19,973,368 溝路維持費 118,107,518 揚水機維持費 385,026,488 下部交付金・助成金 56,775,428 維持管理適正化事業費 94,920,000 施設改善対策事業 84,210,000 拠出金 64,130,380 管理諸費 26,003,265
土地改良 事 業 費	192,550,366	団体営事業費 112,173,200 補償工事費 1,183,819 受託事業費 79,193,347
諸税及び 負 担 金	712,902,276	諸 税 3,849,900 道営分担金 702,728,376 その他事業負担金 6,324,000
繰 出 金	403,904,743	備荒積立 1,202,304 財産処分積立 45,751,052 地区除外決済金等積立 145,727,240 役員退任功労積立 1,978,530 退職給与積立 59,870,872 国営負担積立 13,454,671 道営負担等積立 124,648,849 財産・維持管理調整積立 11,271,225
償 還 金	1,352,332,424	農林漁業資金償還金 442,295,898 長期借入金償還金 675,359,738 繰上償還金 234,676,788
諸支出金	32,461,154	財産取得費 206,680 厚生管理費 1,931,392 一時借入金利子 324,657 事業推進費 342,030 団体負担金 3,798,380 諸 費 25,858,015
換 地 費	0	
予 備 費	0	
支出合計	4,208,151,466	



平成24年度 財産状況 (平成25年5月31日現在)



監 査 報 告 書

平成 24 年度決算監査を執行したので、次の通り報告いたします。

記

1. 監査をした年月日 平成 25 年 7 月 2, 3, 4, 5 日 4 日間
2. 対象とした年月日 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
3. 監 査 の 結 果

1) 業務に関する事項

イ. 運営に関する状況

定款及び諸規定の整備状況、又（総代会、理事会、各委員会）の開催においても適切に運営をされておりその他の事項についても良好だと認めます。

ロ. 事業に関する状況

各事業が当初計画通り施行をされておりさらに施設の維持管理も適正であると思われます。又工事に伴う入札、請負契約等事務的手続き、関係書類の整備も良好と認めます。

2) 財務に関する事項

イ. 会計に関する状況

予算に対して順調に運営をされており、賦課徴収も役職員の努力の結果が見受けられます。又借入金等の使途、償還等も適正に行われていると認めます。

ロ. 経理に関する状況

金銭出納、残高の一致状況等経理全般に涉って適正に行われており良好と思われます。又財産台帳の整備、各金融機関の通帳等の管理も適正と確認をいたしました。

以上全般を通して良好と認めます。

平成 25 年 7 月 5 日

北海土地改良区 総括監事 山 口 勝 利 ㊞

筆頭監事 梶 俊 忠 ㊞

監 事 林 孝 友 ㊞

監 事 白 倉 敏 美 ㊞

監 事 村 上 敏 文 ㊞

平成25年度 第1回 補正予算の概要

一般会計 148,000 千円 追加補正

平成 25 年 8 月 23 日開催の第 1 回臨時総代会において、**平成 24 年度決算からの繰越金、負担金等**を主たる要因として、148,000 千円を追加し、総額 4,478,000 千円とする第 1 回補正予算を可決した。

平成 25 年度 一般会計 第 1 回 補正予算表

収 入

(単位：千円)

科 目	補正前の額	補 正 額	計	説 明
賦 課 金	2,047,709	589	2,048,298	事業賦課金 589
使 用 料	11,478	0	11,478	
補助金及び助成金	607,720	15,400	623,120	補助金 15,400
財 産 収 入	8,887	0	8,887	
受託及び補償金	48,501	0	48,501	
繰 入 金	329,428	57,499	386,927	基本財産繰入金 37,782 積立金繰入金 19,717
借 入 金	907,662	3,439	911,101	農林漁業資金借入金 9,680 長期借入金 △ 6,241
諸 収 入	288,613	776	289,389	雑入 67 決済金 709
換 地 費	2	0	2	
繰 越 金	80,000	70,297	150,297	前年度繰越金 70,297
収 入 合 計	4,330,000	148,000	4,478,000	

支 出

(単位：千円)

科 目	補正前の額	補 正 額	計	説 明
一 般 管 理 費	717,403	13,849	731,252	退任給与金 13,849
営 造 物 管 理 費	899,188	7,788	906,976	溝路維持費 4,000 助成金 3,788
土地改良事業費	109,625	28,000	137,625	団体営事業費 28,000
諸税及び負担金	889,806	△ 7,963	881,843	道営分担金 △ 7,907 その他事業負担金 △ 56
繰 出 金	283,762	67,416	351,178	地区除外決済金等積立繰出金 56,969 退職給与積立繰出金 10,000 国営負担積立繰出金 298 道営負担等積立繰出金 149
償 還 金	1,379,083	160	1,379,243	転用繰上償還金 60 繰上償還金 100
諸 支 出 金	43,131	38,783	81,914	返還金 37,782 雑出 1,001
換 地 費	2	0	2	
予 備 費	8,000	△ 33	7,967	予備費△ 33
支 出 合 計	4,330,000	148,000	4,478,000	

人事通信

職員人事

十月一日付発令

▼総務部 総務課 主事

小嶋 凌太

(総務部 総務課 主事補)

▼技術部 美唄事業所 技師

中矢 翔弥

(技術部 美唄事業所 技師補)

▼技術部 岩見沢事業所 技師

中尾 友則

(技術部 岩見沢事業所 技師補)

どうぞよろしくお願い致します。



おくやみ

当区関係者において、左記の方々のご逝去されました。

ここに、生前中当区業務運営にご尽力賜りました事に深く感謝申し上げ謹んでご冥福をお祈り致します。

◎元役員

寺本 保次氏 (岩見沢市)

旧東栗沢土地改良区 理事

(昭和63年～平成12年)
平成25年6月22日 逝去

山下 義晴氏 (岩見沢市)

元岩見沢第5支線組合支線長

(平成17年～平成25年)
平成25年9月25日 逝去

元岩見沢第2分水区长

(平成19年～平成25年)
平成25年9月25日 逝去

◎職員



参事

今井 賢治氏

ご逝去

昭和五十一年四月、事務職員として採用、平成十九年からは参事として活躍されておりましたが、平成二十五年十月十五日逝去されました。(行年六十一歳)

面積が変わったらすぐ手続き

農地が減ったり増えたりした時や、耕作者が変わった時はすぐ土地改良区に届出(名義及び地目変更又は地区除外の手続き)をして下さい。

※ 賦課金を滞納した土地の取得にはご注意を！

滞納している土地を購入すると、取得された方がその土地の滞納金を支払うことになります。(土地改良法 42 条：権利義務の承認) 権利義務の承認とは、土地に有した事業に関する権利(水使用)と義務(賦課金納入)を引き継ぐことです。従って、購入する際に土地代を決める場合は事前に当改良区に滞納の有無を必ず確認して下さい。

届出がない場合は、そのまま賦課されますので、農業委員会、農業協同組合に手続きを行った際は、必ず土地改良区にも届出をお願い致します。

尚、いずれも農業委員会の書面、分筆図等の書類と印鑑を持参の上、届出をして下さい。

(変更の手続きは、賦課調整課、各事業所へ)

J I C A (独立行政法人国際協力機構)

地域別研修「アジア地域農民主体型用水管理システム ベトナム」研修生の受入

当区では、昨年に引き続き、J I C A 研修生（ベトナム）8 名を 6 月 10 日から 7 月 23 日迄受け入れ、担当職員が土地改良区の組織運営・管理組合の役割・維持管理方法等を説明し、北海頭首工をはじめとする水利施設の現地視察、北大や開発局等での講義、岩見沢市への表敬訪問のほか、道外（京都府、滋賀県）の土地改良区視察（巨椋池土地改良区、洛西土地改良区、野州川下流土地改良区）や近畿農政局訪問も行いました。

8 名の研修生はそれぞれ自国で農業用水路を管理する公的機関に勤められている方々で、今回の研修では日本の土地改良区で行われている農民主体型用水維持管理システムを学びました。1 ヶ月半におよぶ長期研修で研修生達が学んだ知識や技術を自国の農業用水管理の発展に資する事を願っています。最後に今回の研修生受入にご協力いただいた関係機関の皆様にお礼を申し上げます。



岩見沢市への表敬訪問



用水管理に係る問題分析の様子



施設見学の様子



研修終了式後の記念写真

第8回 北海幹線用水路ウォーキング

今年は289名が参加

今年も7月28日(日)第8回目の北海幹線用水路ウォーキングが美唄市光珠内町の光珠内調整池管理棟事務所を会場に開催されました。

今年は10kmコース83名、7kmコース96名、3kmコース110名、合わせて289名で、年齢は1歳の子供から82歳の人迄が参加されました。



開会式前の会場風景



スタート前のラジオ体操



3km コースのスタート



防風林内を歩く参加者



農産物売り場も盛況



水田地帯を歩く参加者

主催：北海土地改良区

共催：岩見沢農業事務所・空知森林管理署・空知総合振興局
後援：美唄市・J A みねのぶ・疏水ほっかい愛護連絡協議会

植樹活動

岩見沢市 平成 25 年 8 月 23 日

今年度も駒大岩見沢高校 3 年生 46 名が参加し、関係機関等も入れて約 60 名で植樹活動が実施されました。

平成 18 年度から毎年度、北海幹線用水路親水公園地に植栽活動と清掃活動を継続されていて、残念ながら本年度で閉校されるため最後の活動となります。

平成25年度のソフト活動



施設見学会



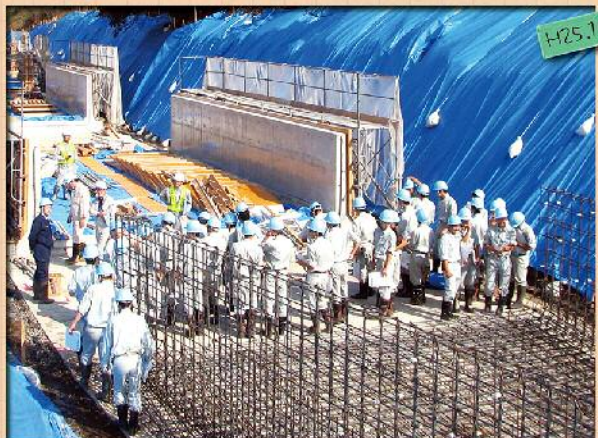
南幌町教育委員会



砂川中央小学校



岩見沢東小学校



岩見沢農業高校

北海土地改良区合併10周年記念式挙行！

北海土地改良区合併10周年記念式が、去る6月25日(火)岩見沢平安閣において、衆議院国會議員をはじめ五百六十名の方々のご出席をいただき挙行いたしました。午後2時30分、司会により合併記念式がスタート。眞野理事長の合併10周年を無事に迎えることができた感謝の思いと北海土地改良区の更なる発展を式辞に込め述べた後、この合併10周年を迎えるにあたり多大なる貢献をいただいた歴代理事他計百十名の皆様へ感謝状を贈呈しました。続いて、ご来賓としてご出席いただいた稲津久衆議院議員・町村信孝衆議院議員・渡辺孝一衆議院議員・小平忠正前衆議院議員始め、高橋はるみ北海道知事・仲家修一北海道開発局農業水産部長・松野哲岩見沢市長の七名の方々からご祝辞をいただき記念式を終了しました。

引き続き、同会場にて前山北海道土地改良事業団体連合会専務理事の乾杯により祝賀会に入り気分も一新、和やかな雰囲気の中でひと時が流れ、塩尻空知管内土地改良区運営協議会副会長の万歳三唱にて北海土地改良区合併10周年記念式の全てを盛会の内に無事終了しました。この合併記念式を開催するにあたり、本当に多くの方々からご協力をいただきましたことに、心よりお礼と感謝を申し上げます。





3,000名が集い、農業農村の重要性と それを支える農業農村整備事業の役割を広く国民にアピール

平成 25 年 9 月 11 日(水)札幌市にて「水土里かがやく北の大地 明日を担う土地改良」をテーマに開催された第 36 回全国土地改良大会 in 北海道は、全国から三千名を超える関係者が集い盛会に開催されました。わが国最大の食料供給地域として大規模に展開されている本道農業と四季折々に移り変わる美しい農村景観などがオープニングビデオで紹介され大会が開会された。式典では、真野北海道土地改良事業団体連合会会長の開会挨拶の後、土地改良事業功績者表彰、東日本大震災復旧・復興状況の基調報告、道内土地改良事業優良事例地区紹介に続き、地元代表二人の若い農業後継者から「明日を担う土地改良の意味するものを噛みしめて、食と農業・農村の未来を確かなものにしていくことが重大な使命と認識し、わが国の農業・農村の礎である「水・土・里」を守り、さらに発展させ、次世代に引き継いでいきます。」と力強い大会宣言がなされ、次期開催県の山梨県土地連に大会旗が引き継がれ無事式典が終了しました。

別会場で行なわれた記念シンポジウムでは、「土地改良区の国際協力の意義」をテーマに基調講演やラオス・カンボジア・ベトナムからの JICA 研修員のプレゼンテーション、JICA コースリーダーを司会にパネルディスカッションなどが行なわれました。

また、二日目の事業視察では、当区の光珠内調整池・北海幹線用水路、国営農地再編事業 中樹林地区がコースになっており、他府県から来た多くの視察者の対応にあたりました。

この大会を通じ、農業・農村の重要性とそれを支える農業農村整備事業の役割を多くの国民に向け発信されました。